

令和7年度(2025年度) 小学校特別活動プロジェクト研究

一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方

－「見通しを立て、振り返る」活動を重視した学級活動の実践を通して－

内容の要約

本研究では、「見通しを立て、振り返る」活動を重視した学級活動(3)の実践に取り組んだ。新たな学習や生活の意欲につなげたり将来の生き方を考えたりする児童の主体的な姿につなげるため、児童が「なりたい自分になりまシート」や「キャリア・パスポート」を活用して「なりたい自分」を思い描き、目標を意思決定する場を設けた。また、児童が意思決定した目標の達成に向けて取り組み、自己評価を通して変容や成長を自覚し、自己肯定感を高められるようにした。

その結果、「見通しを立て、振り返る」活動が充実し、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方を示すことができた。

キーワード

キャリア形成と自己実現 「見通しを立て、振り返る」 主体的な姿
 「なりたい自分」 意思決定 自己評価 自己肯定感

目		次	
I	主題設定の理由	(1)	VI 研究の内容とその成果 (4)
II	研究の目標	(1)	1 「見通しを立て、振り返る」活動を重視した学級活動(3)の実践 (4)
III	研究の仮説	(2)	2 児童と指導者の変容 (8)
IV	研究についての基本的な考え方	(2)	VII 研究のまとめと今後の展望 (10)
	1 学級活動(3)における「見通しを立て、振り返る」活動について	(2)	1 研究のまとめ (10)
	2 研究の成果と課題の分析について	(4)	2 今後の展望 (10)
V	研究の進め方	(4)	文 献／付 録
	1 研究の方法	(4)	
	2 研究の経過	(4)	

滋賀県総合教育センター

大 崎 章 博

小学校特別活動プロジェクト研究

一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方

- 「見通しを立て、振り返る」活動を重視した学級活動の実践を通して -

I 主 題 設 定 の 理 由

小学校学習指導要領(平成29年告示)では、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」¹⁾と示されている。また、特別活動においては、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養うことが、育成を目指す資質・能力として位置付けられている。その実現のために、特別活動で行う学級活動の内容として、学級活動(1)(2)に加え、学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」(以下、学級活動(3)という。)が新設された。これを受け、国立教育政策研究所発行の「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(平成31年1月)では、「特別活動の特質を踏まえ、どのようにキャリア教育を行うのか創意工夫し、各教科や道徳科、総合的な学習の時間などにおける学習等との関連を図って指導することが大切」と示されている。つまり、キャリア教育は、学校教育全体で推進する中で、特別活動、とりわけ学級活動を要とすることが求められているといえる。

学級活動(3)の指導にあたっては、児童が学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりできるようにすることが重要である。そのため、児童が活動を記録し蓄積することのできる教材等を活用することが求められている。本県においては、小学校・中学校・高等学校を通してキャリア教育に計画的・系統的に取り組むための教材として、令和2年度に「共通シート」(以下、「キャリア・パスポート」という。)が示されている。また、「第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン～第4期滋賀県教育振興基本計画を推進するために～」(滋賀県教育委員会、令和6年2月)では、将来の自己実現につながるキャリア教育を推進する取組として、「キャリア・パスポート」を用いて、子どもが自分自身の変容や成長を自己評価できる場を設定することが挙げられている。

一方、令和6年度全国学力・学習状況調査における児童質問調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という設問では、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童の割合は、滋賀県では19.5%(全国比+2.0%)であり、およそ5人に1人が否定的な回答をしている。このことから、小学校におけるキャリア教育の中で、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた取組を更に充実させ、本県の児童が将来の夢や目標をもてるようにしていく必要があると考える。

そこで、本研究では、学級活動(3)において「見通しを立て、振り返る」活動を重視した実践を充実させることにより、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方を示すことを目指して本主題を設定した。

II 研 究 の 目 標

学級活動(3)において「見通しを立て、振り返る」活動を重視した実践を行い、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方を示す。

Ⅲ 研 究 の 仮 説

学級活動(3)において「見通しを立て、振り返る」活動を重視した実践に取り組む。児童が「なりたい自分」を思い描き、目標を意思決定してその達成に向けて取り組んだ後、自己評価を通して自分自身の変容や成長を自覚することができる場を設定することにより、「見通しを立て、振り返る」活動を充実させる。こうした活動の積み重ねによって、新たな学習や生活への意欲を高めたり、将来の生き方を考えたりするなど、児童の主体的な姿が見られるようになり、そのことで一人一人のキャリア形成と自己実現に向けたキャリア教育のあり方を示すことができるだろう。

Ⅳ 研究についての基本的な考え方

1 学級活動(3)における「見通しを立て、振り返る」活動について

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編(以下、学習指導要領解説という。)では、学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」で育成を目指す資質・能力の例が提示されており、自己のよさを生かして主体的に活動することが重視されている(図1)。そこで本研究では、児童が自己のよさを生かして実践しながら目指す、よりよい自己の姿を「なりたい自分」と表現する。また、児童の主体的な姿を育成するために、学級活動(3)を中心として、「見通しを立て、振り返る」活動を位置付け、継続的に充実させる。

- ・働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。
- ・自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。
- ・現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

図1 学習指導要領解説に示されている学級活動(3)で育成を目指す資質・能力の例(下線は筆者)

見通しを立てる活動については、児童が「なりたい自分」を思い描き、目標を意思決定できるようにする。また、振り返る活動については、目標の達成に向けて取り組んだ後、自己評価を通して自分自身の変容や成長を自覚できるようにし、自己のよさに気づき、自己肯定感を高められるようにする。

このように、「見通しを立て、振り返る」活動を継続的に充実させることで、新たな学習や生活への意欲を高めたり将来の生き方を考えたりする児童の主体的な姿につなげることができると思う。

(1) 「見通しを立て、振り返る」活動を充実させるためのシートの作成と活用

学級活動(3)の実践においては、児童が「なりたい自分」を意識しながら目標を意思決定し、その達成に向けて取り組めるようにすることが重要である。その際、「つかむ」「さぐる」「みつける」「きめる」といった活動¹⁾を通して見通しを立て、その後の取組について振り返ることができるようにする。

「見通しを立て、振り返る」活動を充実させるために、本研究では、当センターの令和6年度小学校特別活動プロジェクト研究の成果物である「なりたい自分になりまシート」を基にした「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」(図2)と「なりたい自分になりまシート(行事編)」(図3)を用いる。指導者は、これらのシートを参考に、児童の実態や取組内容に応じたシートを作成し、学級活動(3)を中心に活用する。

「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」は、各教科や道徳科、総合的な学習の時間などにおける学習、または学校生活に関わる目標を設定し、その達成に向けての取組の様子を記録する

¹⁾ 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」に、学習過程の基本的な例として示されている。

ものである。また、「なりたい自分になりまシート(行事編)」は、運動会等の一定期間を通して取り組む行事において、学年や学級の目標を踏まえて自分の目標を設定し、記録するものである。加えて、取組の中間に振り返りを行い、最後まで「なりたい自分」を意識し続けられる内容で構成する。

このように、「なりたい自分になりまシート」を用いて「見通しを立て、振り返る」活動を繰り返し行うことで、児童一人一人が自らのキャリア形成と自己実現に向かっていくことができるようになる。

図2 「なりたい自分になりまシート (学習・生活編)」

図3 「なりたい自分になりまシート(行事編)」

(2) 「キャリア・パスポート」の活用

「小学校キャリア教育の手引きー小学校学習指導要領(平成29年告示)準拠ー」(文部科学省、令和5年3月)では、若者の学習意欲、自己肯定感や社会参画意識が低い現状が示されたとともに、児童一人一人が自己のよさや可能性を認識することの重要性が述べられている。児童が自己のよさや可能性を認識するためには、年度初めに思い描いた「なりたい自分」や、学期末の自己評価で自覚した自分自身の変容や成長を記録することが重要であると考えられる。そこで、本研究では、学級活動(3)を通して「キャリア・パスポート」(図4)を活用し、1年後の自分を見据えた「見通しを立て、振り返る」活動に取り組むとともに、児童が自己のよさや可能性を認識できるようにする。

また、自己評価を行う際には、「なりたい自分になりまシート」などの蓄積された記録を基に記入できるようにし、過去の取組を振り返りながら過去と現在の自分を比較できるようにする。

このような取組を通して、児童は自分自身の変容や成長を自覚し、自己肯定感を高

図4 「キャリア・パスポート」

めていくことが期待される。その結果、新たな学習や生活への意欲を高めたり、将来の生き方を考えたりする主体的な姿につながると考える。なお、年度初めに思い描いた「なりたい自分」を達成できた場合や、更新が必要となった場合には、その都度目標を更新するよう促し、「なりたい自分」を見直しながら次の見通しを立てていくこととする。

2 研究の成果と課題の分析について

「見通しを立て、振り返る」活動を通して、児童が一人一人のキャリア形成と自己実現に向かっていく主体的な姿につながったかどうかについては、「なりたい自分になりまシート」や「キャリア・パスポート」における児童の記述を基に見取る。

また、本研究の実践が、児童一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて有効であったかどうかについては、始期と終期に実施する質問紙調査の結果を比較する。

さらに、「見通しを立て、振り返る」活動に取り組む過程で、児童が自己肯定感を高めることができたかどうかについては、指導者の見取りにより検討する。あわせて、指導者自身のキャリア教育に対する意識の変容についても確認する。

V 研究の進め方

1 研究の方法

- (1) 本研究の目標を研究委員(当センターと共同して研究を進める指導者)と共有する。
- (2) 実践校の児童を対象として、研究の始期と終期に質問紙調査を行う。
- (3) 研究委員はプロジェクト研究会(以下、研究会という。)における学びと各校での実践との往還を繰り返し、児童の実態を踏まえた取組を計画・実施するとともに、その過程で児童の変容と成長を見取る。
- (4) 質問紙調査の結果および指導者による見取りを基に、児童の変容や成長を分析し、研究の成果と課題を検証する。
- (5) 研究会の振り返り等の記録から、指導者のキャリア教育に対する意識の変容について確認する。

2 研究の経過

4月	研究構想、研究推進計画の立案	8月	第3回研究会(講義と9月・10月の授業実践に向けての指導案検討)
5月	第1回研究会(研究の概要説明)	9月	各校での授業実践
6月	各校での授業実践 児童質問紙調査(始期)の実施と分析	10月	各校での授業実践 第4回研究会(実践授業の参観・協議)
	第2回研究会(授業実践の振り返りと7月の授業実践についての共通理解)		児童質問紙調査(終期)の実施と分析
7月	各校での授業実践	11月	第5回研究会(研究のまとめ)
		2月	研究発表大会

VI 研究の内容とその成果

1 「見通しを立て、振り返る」活動を重視した学級活動(3)の実践

本研究では、一人一人のキャリア形成と自己実現に向かうキャリア教育のあり方を示すため、学級活動(3)において「見通しを立て、振り返る」活動を充実させることをねらいとして、研究会での学びと実践校における授業実践との往還を重ねた。研究委員は、研究会での学びを踏まえ、表に示す題材を設定し、それぞれの学級の実態に応じた学級活動(3)の実践を行った。

表 各実践校における学級活動(3)の授業実践の題材

指導者 (研究委員)	実践校 対象学年	実践した題材※	
A	X校 第5学年	ウ「学ぶことが将来につながるー進んで取り組む自主学習ー」 ア「自分を成長させる運動会」	※表中のア、イ、ウは、学習指導要領に示された学級活動(3)の内容を示す。 ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 ※各校の年間指導計画に基づき実施
B	Y校 第6学年	ア「みんなと仲良くなるために」 ア「自己理解を深め、新たな目標を設定しよう」 ア「集団の中で自己と向き合う組体操」	
C	Z校 第6学年	ア「1学期の目標をもって取り組もう」 ア「2学期の目標をたてよう」 ア「〇〇〇な運動会」 イ「最高のそうじ」	
D	X校 第5学年	ア「なりたい自分になるために」 ア「自分の成長を将来につなげよう」	

(1) 「見通しを立て、振り返る」活動を充実させるための「なりたい自分になりまシート」の活用

ア 児童が目標を意思決定した事例

X校の指導者Aは、児童が学ぶ意義を理解し、主体的に学習に取り組むことをねらい、「学ぶことが将来につながるー進んで取り組む自主学習ー」という題材で、「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を活用した学級活動(3)の実践に取り組んだ。

児童が具体的な目標を意思決定するための手立てとして、導入では、学級の児童を対象に実施した自主学習に関するアンケートの結果を示し、「やることが分からない」「自分で内容を考えることに限界がある」といった児童の悩みを共有した。さらに、「自主学習は何のためにするのか」と問いかけることで、児童の課題意識を高めた。そのうえで、5年生の児童が自主学習の目標を設定する際のよい手本となることを期待し、6年生が将来の夢とその実現に向けた努力を語るインタビュー動画を提示した。

児童aは、当初から漢字テストで100点を取りたいという思いをもっていた(図5のA)。初めに考えた取組の内容は、「自主学習で練習する」など抽象的なものであった(図5のB)が、指導者Aが、友達とアドバイスをし合う時間を設けたことにより、児童aは「どのように学習を進めるのか」

図5 児童aが書いた「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」の一部

「いつ取り組むのか」といった視点に気付くことができた。そして、「テストの範囲分の漢字を書いてよみがながも書く」「週一で練習する」などの、より具体的な取組方法を見つけるとともに、目標を意思決定することができた(図5のC・D)。その後、児童aは、意思決定した目標を意識して、自主学習に取り組んだ。指導者Aは、児童aの取組の様子について、目標の達成に向けて自主学習に継続して取り組み、努力が成果につながると実感したことで、自己肯定感が高まり、学習への意欲も高まったと感じていた。

このように、指導者がインタビュー動画等で手立てを講じたり友達とアドバイスをし合う時間を設けたりすることで、児童は「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を用いて、より具体的な目標を意思決定し、「見通しを立てる」活動を行うことができた。

イ 児童が目標の達成に向けて取り組んだ事例

Y校の指導者Bは、運動会に向けた取組の中で、組体操を通して学年集団としての力を伸ばすとともに、児童が個々の目標にも意識を向けられるようにしたいと考えた。そこで、「集団の中で自己と向き合う組体操」という題材で学級活動(3)の実践に取り組み、児童が自分自身と向き合う視点と、仲間と向き合う視点を意識できるように工夫した「なりたい自分になりまシート(行事編)」を作成して活用した。

児童bは、2つの視点について図6のように「なりたい自分」を思い描き、組体操でペアになった友達だけでなく、家庭でも家族と一緒に練習するようにした。また、友達には自分から積極的に話しかけ、練習を進めた。

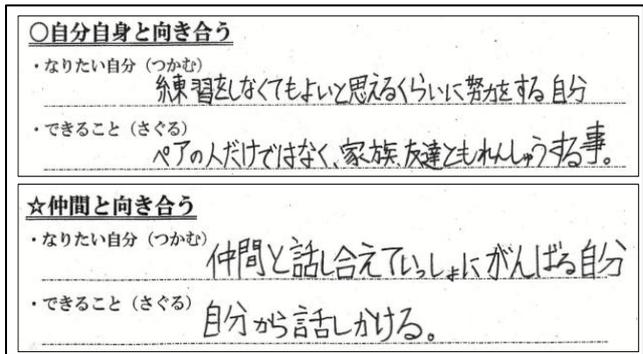


図6 児童bが書いた「なりたい自分になりまシート(行事編)」の一部

本番後の振り返りでは、児童bは、自分が設定した目標を意識して行事に取り組むことができたと述べている。特に、練習で思うようにいかない場面があっても、途中で投げ出さずに挑戦し続けた経験を通して、「あきらめない」という言葉を大切にしたいと考えるようになったと振り返っていた(図7)。このことから、行事への取組を通して、自分の成長を実感し、その学びを今後の生活や学習にも生かしていこうとする姿が見られた。

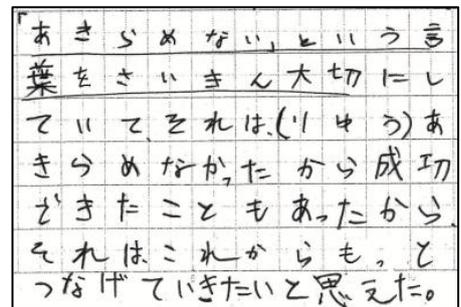


図7 児童bの振り返り

このように、指導者が取組の実態に応じた「なりたい自分になりまシート(行事編)」を作成し、学年の目標と結び付けて活用したことにより、児童は行事の中でも「なりたい自分」を意識して取り組むことができた。その結果、今後も主体的に取り組もうとする姿につなげることができたと考えられる。

ウ 児童が自己評価を通して変容や成長を自覚した事例

Z校の指導者Cの学級では、学級活動(3)の授業において「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を繰り返し活用してきた経験から、児童は「見通しを立て、振り返る」活動に取り組むことの大切さを実感していた。そこで指導者Cは、新たな学習や生活への意欲を高め、児童の主体的な姿につなげられるように、児童が「見通しを立て、振り返る」活動に自ら取り組める環境を整えた。具体的には、「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を教室内に常時設置し、児童が必要に応じていつでも活用できるようにした。

児童cは、宿題などのやらなければならないことを後回しにしてしまうという自分の課題を克服したいという思いをもっていた。そこで児童cは、自ら「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を手に取り、「毎日宿題をする」という目標を意思決定した(図8)。

その後、児童cは、意思決定した目標を意識しながら、実践に継続して取り組めるようになっていった。指導者C



図8 教室に設置された「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を活用する児童c

は、一定期間が経過した段階で児童cに自分の努力について振り返るよう促し、自己評価としての感想を聞き取った。児童cは、「与えられた課題を後回しにせず、先にやり遂げた方が時間を有効に使えることに気付いた」と答えた。また、「やればできることに気付いた」とも話しており、自分の取組を振り返ることによって、成功体験を積み重ねてきたことや、自分自身の変容や成長を自覚している様子がうかがえた。さらに、「今後も与えられた課題と向き合うことを続けたい」と述べ、自分に合った学習の進め方を見いだしたことで、学習への意欲も高まっていると考えられる。

このように、指導者が「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」を活用できる環境を整えたことにより、児童は具体的な目標に向けて継続して取り組み、自己評価を通して自分自身の変容や成長を自覚することができた。その結果、自己肯定感の高まりや新たな学習への意欲につながることであったと考えられる。

(2) 児童が「なりたい自分」を思い描くための「キャリア・パスポート」の活用事例

X校の指導者Dは、児童が自分自身の変容や成長を実感し、それを将来の生き方につないでいくことをねらい、「自分の成長を将来につなげよう」という題材で、「キャリア・パスポート」を活用し、前期の自己評価と年度初めに思い描いた「なりたい自分」を見直す学級活動(3)の実践を行った。「キャリア・パスポート」を活用して振り返りを行う際には、1人1台端末に保存されている行事などの振り返りの記録を生かすことで、これまでの取組が「なりたい自分」につながっていることに児童が気付けるようにしたいと考えた。

児童dは、年度初めに「キャリア・パスポート」を記入する際、4年生までの生活や学習を振り返り、優しさという自分のよさを生かしながら、「なりたい自分」を思い描いていた(図9のA)。前期の終わりには、半年後の「なりたい自分」について改めて思い描き、「なりたい自分」に向かうための取組について意思決定する活動を行った。この活動では、「同学年や知っている人にしか優しくできていないから、後期はどんな人にも優しくする」(図9のB)と記述し、振り返りによる自己評価を基に、より具体的な目標を新たに意思決定した。児童dは、前期の振り返りを行う際、行事や学習の様子が分かる写真や作文、「なりたい自分になりまシート」等の蓄積された記録を見返すことで、現在と過去の自分を比べることができた。その中で、人に優しくできるという自分のよさに改めて気付いたり、できるようになったことやまだできていないことを整理したりしながら、自分自身の変容や成長を実感している姿が見られた。また、どのような場面で誰に対して優しくできていたかを確かめるなど、自己評価を通して自己理解を深められたことで、自分の優しさを更に幅広く生かしたいと考えるようになった。

このように、児童は「キャリア・パスポート」を活用して、年度初めに思い描いた「なりたい自分」を基に自己評価を行った。その際、できたこととできていないことが整理され、自己理解が進むことにつながった。その結果、これからの学校生活の中での新たな「なりたい自分」を思い描き、

4月に目標を設定した「キャリア・パスポート」

○今の自分について考えてみましょう。

今年、こんなことをがんばりたい！
(将来、大人になったときのことを考えながら書きましょう) どうしてそう考えたのかな？

どうも人のように、未来にでも優しく、
積極的に人のために努力する
5年生になりた。 **A**

どんなことから始めたいですか？

一日五善 おしんい
まありを見ておれ
ておやせよ。

今からできること。
あいさつ・話し物合う。

10月に目標を振り返ったシート

自分の成長を見つめ直そう 年 組 名前 ()

めあて
今までのがんばりを生かして、なりたい自分に近づいたための目標を見つめ直そう

◎5年生のおわりにどんな自分になりたいですか？ ◎どうしてそうりたいのか、
目標を書きましょう。

5年生の終わりに、
みんなにやさしくできると
なりたい！！ **B**

◎目標に近づいたのはどんなことができたか？
今すぐ行動に移せるくらい、具体的に書いてみましょう！

一日五善 こまごいる人にかけよる。

図9 児童dの「キャリア・パスポート」を活用した振り返りと目標設定(下線は筆者)

次の見通しを立てようとする児童の姿につながった。

(3) 児童が「なりたい自分になりまシート」と「キャリア・パスポート」を活用し、次の目標に向かう事例

Y校の児童eは、友達とコミュニケーションを図る際に、自分の声が小さいことにコンプレックスを感じており、年度初めには「大きな声を出せるようになりたい」という「なりたい自分」を思い描き、「キャリア・パスポート」に記入した。その後児童eは、日頃から「なりたい自分」を意識し、大きな声であいさつすることを心がけた。その様子を見ていたY校の指導者Cは、少しずつ大きな声であいさつできるようになってきた児童eの変容を感じ取っていた。さらに、周りの児童も、児童eの頑張る姿や変容・成長を認識し、友達から認められる経験を重ねることで、児童eは自分の成長を一層実感できるようになっていった。

運動会では、児童eは応援団長に挑戦することになった。児童eは、「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」(図10)を活用し、これまでの自分自身の変容や成長を生かして、応援団長として大きな声を出すという目標を意思決定した。運動

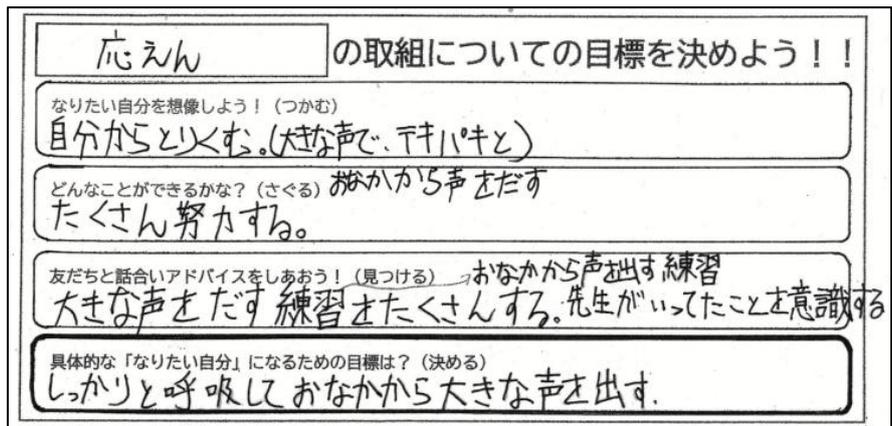


図10 児童eが書いた「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」

会後、指導者Cが児童eに自分の成長について聞き取りを行ったところ、児童eは「最初は不安が大きくやり遂げられるか心配だったけれど、友達の支えもあって、応援団長をして頑張れたことはよい経験になった。自分が団長を務める団が応援合戦の最優秀賞をとれたこともとてもうれしかった。応援団長に挑戦したことで、自信がもてるようになった」と振り返っていた。

さらに、学期末には、応援団長としての取組を振り返り、児童eは「キャリア・パスポート」を用いて、自分自身の変容や成長を整理した。年度初めに記入した「自分ができていないことに挑戦したい」という「なりたい自分」と比べながら、大きな声で呼びかけることができた経験や、友達の前で自信をもって話せるようになってきたことなどを振り返り、「以前よりも大きな声で自分の思いを伝えられるようになった」と自己評価した。また、その振り返りを通して、「これからは授業や話し合いの場でも、自分の考えをはっきりと伝えられるようになりたい」など、次の目標についても「キャリア・パスポート」に整理し、新たな「なりたい自分」を思い描く姿が見られた。

このように、児童が「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」と「キャリア・パスポート」を活用し、「見通しを立て、振り返る」活動に取り組むことで、「なりたい自分」を意識しながら主体的に挑戦することができた。そして、自分の取組を「キャリア・パスポート」で振り返り、「なりたい自分」に近付いたと実感したことで、自分自身の変容や成長を自覚し、自己肯定感が高まった。その結果、次の目標を設定しようとする姿につながったと考えられる。

2 児童と指導者の変容

(1) 児童の変容

ア 児童質問紙から分かる児童の変容

本研究では、「見通しを立て、振り返る」活動を繰り返し行うことで、児童が自己理解を深め

ながら一人一人のキャリア形成と自己実現に向かっていくことができたかを検証するために、児童質問紙調査を実施した。質問項目は、特別活動におけるキャリア形成の力を測る尺度²⁾と、子どもの強みへの注目を測る尺度³⁾を基に作成した(詳細は付録①・②)。また、終期には、指導の手立ての効果を問う項目を追加した。ここでは、特に注目したい項目を抜粋して検証した結果を示す。

実践校の児童116名(第5学年2クラス、第6学年2クラス)を対象に、研究の始期と終期に調査を行い、その調査結果を得点化ⁱ⁾したうえで、それぞれの平均得点を始期と終期で比較したⁱⁱ⁾。

特別活動におけるキャリア形成の力を測る尺度については、始期の平均得点を基準に、平均より低いグループ(低群)と平均より高いグループ(高群)に分けて比較を行った。その結果、低群の平均得点は有意に上昇し、高群の平均得点は有意に低下していた(詳細は付録③)。低群では、「見通しを立て、振り返る」活動を繰り返し行うことで、目標に向かう方法を学び、目標に向かって取り組もうとする意識が高まったと考えられる。一方で高群では、元々キャリア形成に向かう意識が高かった児童が、本研究の取組を通して、目標を設定し、それに向かうための見通しを具体的に立てることや、実際に目標を達成するまで取組を継続することの難しさを自覚し始めたと考えられる。指導者によると、ある児童は、将来の夢をもっている、実際にその夢を実現するまでにはいくつかの段階を経る必要があることに気づき、夢を叶えるまでの道のりの長さを感じている様子が見られたという。

一方、子どもの強みへの注目を測る尺度については、全体として平均得点が有意に上昇していた(詳細は付録④)。研究を進める中で、「なりたい自分になりまシート」や「キャリア・パスポート」を用いることにより、成功体験や失敗体験を具体的に振り返る機会が増えた。そのことによって、自分の得意・不得意や好き・嫌いなどについての自己理解が進み、自己のよさや可能性に目を向ける力が高まったと考えられる。

また、終期の調査では、「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」や「なりたい自分になりまシート(行事編)」、「キャリア・パスポート」の3種類のシートを活用した「見通しを立て、振り返る」活動が、「なりたい自分」に向かううえで有効であったかを尋ねた。その結果、低群においては、「なりたい自分になりまシート(学習・生活編)」の活用が、「目的達成」に関する得点を高める要因となっていることが分かった(詳細は付録⑤)。

イ 指導者の見取りによる児童の変容

第5回研究会では、指導者が日常の見取りで捉えた児童の変容を共有した。指導者Bと指導者Dからは、「目標を自分で意思決定したことで、主体的に取り組もうとする姿が見られるようになった」といった、見通しを立てる活動についての発言があり、目標を意識した取組が充実することで、児童の成長が促進されたことが分かった。

また、指導者Cからは、振り返る活動において、新たな長所を見いだす児童の姿が挙げられ、取組後に自己評価を行うことで、自己理解が深まり自己肯定感が高まることが分かった。

このように、「見通しを立て、振り返る」活動を継続的に充実させることで、児童が自己肯定感を高めながら、キャリア形成と自己実現に向かおうとする主体的な姿が見られるようになったといえる。

i) 「とてもよくあてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」という回答選択肢の場合は、それぞれ5点、4点、3点、2点、1点と得点化する。そして、項目ごとの得点を合計し、そこから算出した平均得点を心理尺度の得点とする。

ii) データ分析には、清水裕士氏が開発した統計分析ソフト HAD⁴⁾を利用した。

(2) 指導者の変容

指導者は、第5回研究会において、自身のキャリア教育に対する意識の変容について振り返った(図11)。研究に関わって授業実践を積み重ねていく中で、児童が主体的に学習に取り組もうとする姿や意欲の高まりなどの変容を実感し、キャリア教育を位置付けた指導の重要性を改めて認識するようになった。

- ・「なりたい自分になりまシート」を活用し、「見通しを立て、振り返る」活動を繰り返す中で、児童が目標を設定したり振り返ったりすることの大切さが分かった。
- ・「なりたい自分になりまシート」の記述内容から児童一人一人のことがよく分かり、それぞれに寄り添ったフィードバックができるようになった。このフィードバックが、児童の主体的な取組姿勢と取組を継続しようとする意欲につながったと実感している。
- ・「キャリア・パスポート」の意義を学んだ。4月には、児童が1年を通して「なりたい自分」を意識して学校生活を送れるように、1年後の「なりたい自分」を具体的にイメージしながら「キャリア・パスポート」に目標を書けるような学級活動(3)の授業を設定したい。
- ・児童が日常的に目標を意思決定する環境を指導者がつくることで、多くの児童が「なりたい自分」を意識して自身の力で課題解決に向かえるようになったと感じる。このような児童の変容を基に、キャリア教育のあり方を自校の先生方に伝えたい。

図11 第5回研究会での研究委員の振り返り(要約)(下線は筆者)

また、「見通しを立て、振り返る」活動を通して児童が記入した「なりたい自分になりまシート」や「キャリア・パスポート」などの成果物から、児童の思いや努力を読み取り、児童理解を一層深めることができた。さらに、こうした成果物を手がかりに、児童の成長に気付き、タイミングよく声をかけたり支援したりしようとする場面が増えたことで、自身の指導のあり方にも変化が生まれたと振り返っている。

このように、児童の成長や変容を間近に感じながら、「見通しを立て、振り返る」活動を継続して取り入れる過程を通して、指導者はキャリア教育の重要性を実感し、キャリア教育の視点をもって日常の教育活動を捉え直すようになった。学校教育のあらゆる場面にキャリア教育を行う機会が存在すると意識することが、児童の成長を支える基盤となり、児童一人一人のキャリア形成と自己実現を促すことにつながると考えられる。

Ⅶ 研究のまとめと今後の展望

1 研究のまとめ

- (1) 年度初めに「キャリア・パスポート」を活用して「なりたい自分」を思い描き、その「なりたい自分」を意識して取組を充実させるために「なりたい自分になりまシート」を活用したことにより、児童の「見通しを立て、振り返る」活動を位置付け、継続的に充実させることができた。
- (2) 振り返りの中で、児童が自己評価を通して自分自身の変容や成長を自覚したことで、自己肯定感が高まり、次の目標に向かう見通しを新たに立てることができるようになるなど、次の学習や生活に主体的に向かおうとする姿につながった。
- (3) 児童質問紙調査の結果や指導者の見取りから、「見通しを立て、振り返る」活動を充実させることにより、特にこれまでキャリア形成に向かう意識が低かった児童において、目標に向かう取組の仕方を学び、強みへの注目が高まったり自己理解が深まったりすることが分かった。また、指導者自身も、児童の変容や成長を通してキャリア教育の重要性を実感し、キャリア教育の視点をもって日常の教育活動を捉え直すようになるなど、指導観の変容が見られた。

2 今後の展望

- (1) 指導者は、「なりたい自分になりまシート」や「キャリア・パスポート」等を活用した取組を通して、児童の「なりたい自分」や目標を的確に把握し、その内容に応じて言葉かけなどのフィードバックをタイミングよく行うことで、児童が主体的に学習や生活に向かう姿につなげていくことが

求められる。

- (2) 学級活動(3)は、話し合い活動等を通して他者と関わりながら個人としての目標を意思決定する活動である。そのため、合意形成に向けて多様性を認め合い折り合いを付ける力を養う学級活動(1)や、課題に対して原因を追究し解決に向かう力を養う学級活動(2)との関連を意識し、特別活動全体を見通して学級活動(3)に取り組んでいくことが重要である。

文 献

- 1) 文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)」、平成30年(2018年)
 - 2) 阿部望・岸田広平・石川信一「子ども用強み注目尺度の作成と信頼性・妥当性の検討」『パーソナリティ研究』第28巻第1号、令和元年(2019年)
 - 3) 宮田延実「小学校のキャリア形成を促進する特別活動の役割」『日本特別活動学会紀要』第26号、平成30年(2018年)
 - 4) 清水裕士「フリーの統計分析ソフトHAD：機能の紹介と統計学習・教育、研究実践における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』第1巻、平成28年(2016年)
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程センター「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」、平成31年(2019年)
- 文部科学省「小学校 キャリア教育の手引き ー小学校学習指導要領(平成29年告示)準拠ー」、令和5年(2023年)
- 滋賀県教育委員会「第Ⅲ期学ぶ力向上滋賀プラン～第4期滋賀県教育振興基本計画を推進するために～」、令和6年(2024年)
- 滋賀県総合教育センター「『なりたい自分に向けてがんばる力』を育てる小学校の特別活動」、令和7年(2025年)

トータルアドバイザー

帝京大学教育学部教授

安部 恭子

専門委員

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課指導主事

藤 正道

研究委員

米原市立坂田小学校教諭

清水 陵

栗東市立大宝小学校教諭

大門 正幸

人見 優衣

守山市立立入が丘小学校教諭

今井 勇太

付

録

付録① 特別活動におけるキャリア形成尺度の項目と始期、終期の平均得点 (n=116)

項目	始期	終期
協働		
1 考え方や立場がちがっても協力できている。	3.31	3.04
2 クラスのみんなといつでもチームワークが発揮できる。	3.32	3.11
3 学校で何か問題が起きた時、みんなと協力して解決することが多い。	3.28	2.94
4 クラスのメンバーとして自分ができる役割は進んで引き受けている。	3.48	3.07
「協働」の平均得点	3.35	3.04
合意解決		
5 みんなの意見が対立した時、歩み寄るアイデアを出す自信がある。	3.32	2.55
6 けんかをしている友達を仲直りさせる自信がある。	3.14	2.63
「合意解決」の平均得点	3.23	2.60
プランニング		
7 勉強をがんばるのは自分の将来のためである。	3.85	3.59
8 大人になってやりたい仕事がある。	3.48	3.20
「プランニング」の平均得点	3.66	3.40
目的達成		
9 勉強の仕方を自分なりに工夫してやっている。	3.55	2.98
10 自分の立てた目標は計画を立てて実行している。	3.50	2.89
「目的達成」の平均得点	3.52	2.94

付録② 子ども用強み注目尺度の項目と始期、終期の平均得点 (n=116)

項目	始期	終期
自己の強みへの注目		
1 自分の良いところ(長所)を進んでいかそうとしている。	3.47	3.95
2 自分の良いところ(長所)をすなおにみとめようとしている。	3.41	3.94
3 自分の良いところ(長所)を知っている。	3.29	4.00
4 自分の嫌なところ(短所)があっても良いところ(長所)もあると考えなおそうとしている。	3.23	3.56
5 自分の良いところ(長所)を考えるのが好きだ。	2.77	3.38
6 まず自分の良いところ(長所)をみつけようとする。	2.95	3.65
7 自分の良いところ(長所)に気づくことができる。	3.40	3.72
「自己の強みへの注目」の平均得点	3.22	3.74
他者の強みへの注目		
8 まず友達や身近な人の良いところ(長所)をみつけようとする。	3.40	3.94
9 友達や身近な人の嫌なところ(短所)があっても良いところ(長所)もあると考えなおそうとする。	3.21	3.70
10 友達や身近な人の良いところ(長所)に気づくことができる。	3.40	4.15
11 友達や身近な人の良いところ(長所)を考えるのが好きだ。	3.68	3.45
12 友達や身近な人の良いところ(長所)をすなおにみとめようとする。	4.04	4.00
13 友達や身近な人が失敗しても許してあげようとする。	4.29	4.14
「他者の強みへの注目」の平均得点	3.67	3.90

※児童への負担を軽減するため、項目数を減らして実施

付録③ 特別活動におけるキャリア形成尺度の高群と低群における平均得点の比較

		始期	終期	t	p	効果量
協働	高群(n=50)	4.11	3.29	7.44	<.001***	1.60
	低群(n=54)	2.56	2.81	3.13	.003**	0.37
合意解決	高群(n=52)	4.26	2.69	11.96	<.001***	2.36
	低群(n=53)	2.14	2.48	3.44	.001**	0.48
プランニング	高群(n=55)	4.35	3.47	8.08	<.001***	1.50
	低群(n=51)	2.92	3.30	3.20	.002**	0.59
目的達成	高群(n=50)	4.48	3.06	11.30	<.001***	2.50
	低群(n=57)	2.66	2.82	1.56	.126	0.22

※ t : 検定統計量、 p : 有意確率

※ 「目的達成」の低群のみ、有意差は出なかった

*p < .05、 **p < .01、 ***p < .001

付録④ 子ども用強み注目尺度の平均得点の比較

	始期	終期	<i>t</i>	<i>p</i>	効果量
自己への強み(<i>n</i> =105)	3.20	3.73	4.50	<.001***	0.54
他者への強み(<i>n</i> =106)	3.65	3.91	2.63	.010**	0.32

※ *t* : 検定統計量、 *p* : 有意確率 **p* < .05、 ***p* < .01、 ****p* < .001

付録⑤ 重回帰分析の結果

従属変数	独立変数	高群		低群	
		β	R^2	β	R^2
協働	なりたい自分になりまシート(学習・生活編)	.52 [†]		.30	
	なりたい自分になりまシート(行事編)	-.20	.10	.02	.15
	キャリア・パスポート	-.11		.11	
合意解決	なりたい自分になりまシート(学習・生活編)	-.08		.01	
	なりたい自分になりまシート(行事編)	.34	.07	.16	.06
	キャリア・パスポート	-.03		.09	
プランニング	なりたい自分になりまシート(学習・生活編)	.52*		.57	
	なりたい自分になりまシート(行事編)	-.19	.12 [†]	-.28	.14 [†]
	キャリア・パスポート	-.17		-.06	
目的達成	なりたい自分になりまシート(学習・生活編)	-.13		.34*	
	なりたい自分になりまシート(行事編)	.19	.01	.09	.21**
	キャリア・パスポート	-.03		.10	

※ β : 標準偏回帰係数 R^2 : 重決定係数 [†]*p* < .10、 **p* < .05、 ***p* < .01
 ※ 各従属変数の高群、低群の人数は付録③を参照